

### 悪性インフレの可能性も

私の周りの若者と話していると、日本の将来に対して非常に悲観的な見方をしている人が多い。「どうせ自分たちの世代は年金はもうえな」とか、「これだけ政府が借金を増やしていることを考えれば将来の自分たちの税負担はさぞや重いだろう」という発言が出てくる。

確かに私たちの世代は将来の世代に対してとんでもない負担を押しつけている。今の若者はそうしたことに敏感で、その結果が将来に対する悲観論となってしまう。若者が将来を悲観する社会はつくなくものにならない。今のこの状態を何とかしなくてはいけないと考えている人は多いはずだ。

この問題は非常に重いものであり、増税、財政支出削減、年金改革など、きちっと論議していかなくてはならない。ただ、今回はこの点を取り上げるわけではない。この暗い将来に対して、私が周囲の学生たち

にした「明るい？」話を紹介したいと考えている。

「若者の皆さん。皆さんの将来を嘆くことはありません。確かに今の中高年の世代は皆さんに過剰な負担を押しつけてやっています。しかし天がこんなことを見逃すはずはありません。これ以上政府の借金が増えれば、いずれ深刻なイン

### 他人事でない政府債務増加

フレになる可能性があります。インフレは経済を混乱に陥れますし、多くの金融資産を持っている高齢者は資産のかなりを失うことになるでしょう。ただ、政府の借金も大分目減りします。そうなれば、皆さん若い人たちの時代がやってくるのです」とごくような内容の会話を。

過去の多くの国の歴史をひもといても、今の日本のような巨額の政府債務を抱えていて悪性のインフレに至らなかったケースはあまり

多くない。政府債務があまりに膨れあがると、増税や歳出削減で対応することが難しくなり、悪性のインフレが起きてしまうのだ。日本だって第2次大戦の後には深刻な悪性インフレを経験した。日本の財政状況が戦争直後の状況と同じだと言っているわけではない。しかし、GDP比で160%の政府債務は尋常な数字ではないし、少なくとも現在においては世界最高の債務利率であることは間違いない。そしてそれがさらに増え続けているのであるか

ら、インフレのリスクは考えざるを得ないのだ。

### 中高年は資産目減り深刻

誰だって悪性インフレなど望んでいない。しかし、日本の財政に破綻の綻びが出てくるとしたらそれはインフレにつながる動きかもしれないのだ。財政が行き詰まれば、国債

や地方債の金利が急騰するだろう。そうなると国公債の利払いが膨らむことで、財政運営が非常に難しくなる。金利が上がれば、不動産や株価

にも悪影響が及ぶだろうし、企業や個人でもローンを抱えた所は苦しくなってくる。

こうなってくると、金利が上がって景気が悪くなってもインフレが起きないように金融は緩めないのか、それともインフレ覚悟で金融を緩めて高金利を緩和し、景気を刺激しようとするのかの選択となる。不況かインフレかという、どちらにしても有り難くない選択である。

若者には悪性インフレによる混乱の後には若者の時代がやってくるという、多少やけ気味の励ましをしたが、中高年にとっては悪性インフレは深刻な問題である。預貯金で資産を持っている人は、インフレでその価値が目減りしてしまう。1973年には1年間で物価が23・2%上がるといふ狂乱物価が起きたが、そんなことがまた起きれば1年間に資産価値の4分の1を失ってしまうことになる。インフレにならない方がよいに決まっている。若いも若きも政府の借金を他人事として見ないで、インフレのリスクなども視野に入れて自分の問題として考えてほしい。

（総合研究開発機構 理事長・東大教授）

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。